

## “見ながら分ける・見ながら外す” — 顕微鏡下サージカルバー活用の再設計



三橋 純  
Jun Mitsuhashi  
デンタルみつはし  
Dental Mitsuhashi

埋伏智歯抜歯における歯冠分割、メタルコアおよびレジンコア除去などの処置は、いずれも「分ける」「外す」という操作を含む重要な工程であり、術後侵襲や歯質保存量に直結する。

顕微鏡の普及により術野の可視化は飛躍的に向上した。しかし、重要なのは単に“見える”ことではない。“見ながら設計し、見ながら分ける”ことである。

サージカルバーの刃部形態、シャンク長、切削効率および振動特性は、顕微鏡下における視野安定性と操作精度に直接影響する。本講演では、埋伏智歯分割(MZB+、1559L)、メタルコア除去(#330)、レジンコア除去などの臨床例を通して、MANI社製サージカルバーの特性を整理し、顕微鏡下での最適な選択および操作戦略を提示する。

顕微鏡は術野を拡大する装置であると同時に、術者の思考を拡大する装置でもある。“見ながら削る”という視点から、分割および除去操作の新たな基準を考察する。

### 講師略歴

新潟大学歯学部卒

世田谷区開業

日本大学客員教授

日本顕微鏡歯科学会理事、認定指導医